

大会報告



第14回品質工学技術戦略研究発表大会実施報告

RQES2021A 実行委員会

2021年11月26日（金）第14回品質工学技術戦略研究発表大会を「ITとの結合で進化する品質工学—機能性と効率の探究—」の大会テーマの下で開催した。コロナ禍の中、前回大会同様に全面リモート開催となり、大会参加者は120名（正会員67名、非会員3名、賛助会員15名、招待者31名、名誉会員4名）であった。いすゞ自動車(株) 衛藤洋仁の総合司会で、品質工学会会長 椿広計の開催挨拶の後、基調講演、研究発表5件、パネル討論が行われた。

開会のことば

（一社）品質工学会会長 椿 広計

COVID-19の周期的感染拡大は、私たちの生活はもちろん、学協会の運営も一変させました。2021年11月は感染縮小期ではありますが、大会などの企画・運営は入念な準備が必要で、感染規模に対してロバストであるオンライン開催を選択せざるを得ませんでした。田口玄一先生は、人間活動の自由度を重要視されていたと記憶しています。実践と学理とを進化させる学会は、情報発信や収集の場であるだけでなく、自由闊達な議論の場でなくてはなりません。私たちは、この2年ネット上で如何に意見交換を行うかについて、相当習熟したと考えます。本大会も地域を超えた活発な議論が行われることを期待します。

今回の大会は“フロントローディング”をキーワードとした研究発表と討論を行い、品質工学がDXと融合することでどのようにフロントローディングを進化させるのか、進化を加速するには何を私たちはしなければならないのか、そんな議論の場が提供

できれば成功と考えています。

私は品質工学会会長に就任して2年間、あまり多くの方々と品質工学について対面で議論できなかったことも残念に思っています。懇談・雑談といった自由で密なコミュニケーションは、漠然と私たちの人生を豊かにしてきました。新たな発想もそういう場で生まれたものが多々あるはずです。来年は品質工学会創設30年となりますが、学会として、今後の活動をどのように設計するか、例えば、対面コミュニケーションが無くてはならない場とは何なのかも真剣に考えなければなりません。

皆様方にとってこの大会が、わが国の技術経営・品質経営の国際競争力向上のあるべき姿を描くこと、そこに到達するプロセスを考える場となること、そしてそのプロセスを力強く支援する品質工学の役割を明確にする場となることを祈念して、挨拶の言葉とさせていただきます。

【基調講演】

ニューノーマル時代の製造業とイノベーション

経済産業省産業技術環境局

産業技術環境政策統括調整官 三橋敏宏

1. 我が国の製造業をめぐる動向

レジリエンス（標準化）、グリーン（環境問題、機構変動問題）、デジタルについて述べる。

コロナ禍の影響も受け、製造業各企業の売上高、営業利益は引き続き減少傾向にある。2020年第一四半期では製造業の設備投資額が大幅に減少している。コロナ禍の要因を除けば、米中貿易摩擦（米政権変化）、大規模な自然災害（東日本大震災やタイの洪水/サプライチェーンの崩壊）、中国など新興国